

桜の応援歌

Cheering Cherry Blossoms



今年の桜は、3月下旬の陽気で一気に開花した後に花冷えが続いたこともあり、例年よりも長く楽しむことができませんでした。心を奪われるような景色に出会えた人も多かったのではないのでしょうか。

今月号の巻頭ページは、桜を楽しむ人々をカメラで追ってみました。いつか風に散っていくけれど、一生懸命に花を咲かせる——。そんな桜の姿を見ると元気をもらえますね。

「今年度も頑張ろう」。優しく揺れる花びらは、そう口ずさんでいるのかもしれない。



春の陽気に心が踊る——



**満開の桜に
こぼれる笑顔**

取材をした4月上旬、多くの人が内子町の桜の名所を訪れ、思い思いに春のひとときを過ごしていました。コロナ禍になってから3回目の春——。以前のような日常はまだ取り戻せていませんが、満開の桜をめぐる人々のマスクからは笑顔がこぼれます。

きれいな花を毎年咲かせる桜は、「冬のあとには必ず春が来る」と私たちを勇気づけているようです。



1_ 御祓のしだれ桜を撮影するカメラマン 2_ 「咲くのを楽しみにしていた」というおばあちゃん(石畳東のしだれ桜) 3_ 家族で記念撮影(相野の花) 4_ サイクリングで尾首の池まで来た皆さん 5_ いつもの散歩道も春の陽気(柿原川) 6_ 桜満開の参川区体育館のグラウンドでゲートボールを楽しむ 7_ 多くの家族連れが花見を楽しむ四季の詩公園 8_ 善い世の中を願って一夜限りのライトアップ(世善桜)



桜の応援歌

Cheering Cherry Blossoms 

ふるさととは変わらずここにあり――

竹崎孝志^{たかし}さんは、亡き父・勇^{いさむ}さんの思いを継いで「相野の花」のライトアップを続けています。昼間も母の一子^{いちこ}さんと来訪者のおもてなしをしているそうです。「訪れる人は父の面影が強い。何年間も続けた父と同じようには難しい」と孝志さんは話しますが、「来た人に喜んでもらえるのが一番の幸せ」と、勇さんの思いをしっかりと受け継いでいます。

内子町の各地の桜にも地域の人々の思いが込められています。「見る人を元気にしたい」「また来てほしい」「地域をもっとよくしたい」――。その思いは次の時代を生きる人々にも、きつと受け継がれていくはず。

写真はライトアップが終わり、人々が帰った後の「相野の花」です。こんな光景を生んでくれた勇さんと、その思いを受け継ぐ一子さん、孝志さんに感謝の気持ちでいっぱいです。「みんなが大事にしてくれたらうれしい」。孝志さんの言葉に、ふるさとの美しい春が、いつまでも変わらないことを願ってやみません。